

絵画印象の研究における形容詞対尺度構成の検討

長 潔容江¹⁾
原 口 雅 浩²⁾

要 約

本研究では、絵画印象の研究で使用されたSD法による形容詞対尺度構成を検討し、絵画印象を評定する形容詞対尺度を同定することを目的とした。絵画印象について研究された論文の中から、14本の論文を採択した。それらの研究で使用された形容詞対を対象に分析した結果、絵画印象は、活動性因子(12項目)、明るさ因子(8項目)、評価性因子(4項目)、やわらかさ因子(3項目)の合計4つの因子(27項目)で評定されることが分かった。したがって、絵画印象を評定する尺度は、Osgoodが主張する活動性因子および評価性因子に加え、明るさ因子およびやわらかさ因子から構成される。

キーワード：絵画印象, SD法, 形容詞対

問 題

絵画鑑賞に関する心理学的研究は数多くなされている。この場合の心理学的研究とは、絵画を鑑賞した者が、その絵画をどのように解釈し評定したか、あるいは絵画を鑑賞してどのような感情が生起されたかという、絵画を見るという視覚から絵画の評価までの心的過程を研究したものを意味する。

絵画の心理学的研究のテーマは、絵画の色彩が鑑賞者の感情に及ぼす影響(筒井・近江, 2006)、絵画のタイトル(Franklin, Becklen, and Doyle, 1993)や表現技法の教示(石坂・高橋, 2006)が絵画印象に与える影響など多様である。

絵画印象の研究領域では、鑑賞者の心理や感情、あるいは絵画の評価を測定する方法として、Semantic Differential Technique(以下、SD法とする)がよく用いられる。

岩下(1983)によると、SD法とはOsgoodらが開発した測定法であり、さまざまな形容詞対によって構成された尺度を使用し、評定者にコンセプト(概念)に

対して7段階で評定を求めるものである。さらに、得られたデータを因子分析し、抽出された因子を意味空間の座標軸と考えたうえで、この空間への位置づけによってコンセプトに関する意味上の異同関係を把握する。

Osgood学派は、このSD法を用いて行った多くの意味研究およびコミュニケーション研究の結果から、意味構造は、評価性(Evaluation)、力量性(Potency)、活動性(Activity)による3次元の空間から成り立つと主張した(岩下, 1983)。また、荒木(1981)によると、Osgoodらは、この3次元の意味構造により、多くの概念をおおよそ説明できると考えている。

岡田・井上(1991)によると、Tucker(1955)がSD法を用いて絵画鑑賞における鑑賞者の感情を研究し、感情の因子を抽出するまでは、絵画の評価と鑑賞者つまり個人の特性の関係について研究するものがほとんどであった。Tucker(1955)の絵画鑑賞に関する研究においては、Osgoodらが主張する、評価性因子、力量性因子、活動性因子の3因子が抽出されている。

しかしながら、絵画鑑賞に関するSD法を用いた心

1) 久留米大学大学院心理学研究科

2) 久留米大学文学部心理学科

3) 本稿で用いた実験番号およびTable番号等は、オリジナル論文に基づいて表現している。

理学的研究をレビューしてみると、尺度の因子分析の結果はかならずしも一致しておらず、さらに、尺度に用いられている形容詞対もさまざまである。

植木・深野・吉川・西河・細見・水内・辻田 (2004) は、評価性因子、活動性因子、情緒性因子の3因子を抽出しており、Osgoodらの研究結果と類似した結果となっている。荒木 (1981) は、色彩因子、美的評価因子、潜勢力因子、開放感因子の4因子を抽出しており、市原 (1968, 1969, 1970, 1971) は、明るさ因子、活動性因子、気持ちのよさ因子の3因子を最終的に抽出している。また、美大生を対象に研究を行った磯貝・千々岩 (1971) は、活動性因子、力量性因子、素朴さ (評価性の変形) 因子、暖かさ因子の4因子を抽出しており、岡田・井上 (1991) は、活動性因子、評価性因子、個性とバランス因子、女性的なやわらかさ因子の4因子を、高木 (1979) は、評価性因子、明るさ因子、活動性因子の3因子を抽出している。このように、一部はOsgoodらの研究結果と類似しているものの、研究ごとにさまざまな因子が抽出されている。

遠近法を歪ませた絵画を刺激として用いて、表現技法の教示という外部情報が絵画印象に与える影響を研究した石坂・高橋 (2006) の結果からは、新奇性因子、感情的印象因子、絵画空間の密集因子、絵画に対する好み因子、規則性因子の5因子が抽出されており、Osgoodらの研究結果と異なっている。

絵画の色彩に関する研究である板倉・深野・板毛・辻田 (2005) および植木・深野・西河・細見・水内・辻田 (2003) は、評価性因子、活動性因子、情緒性因子の3因子を抽出しており、Osgoodらの研究結果と類似した結果となっている。

絵画の理解度と評価に関する研究を行った筒井・近江 (2006) は、理解因子、面白さ因子、快さ因子の3因子を含む尺度を、筒井・近江 (2010) は、ヘドニックトーン因子、理解度因子、色彩感情因子の3因子を含む尺度を使用している。

したがって、絵画鑑賞に関する研究で、どの形容詞を用いて、どの因子から構成される尺度を用いるべきかを判断するのは難しい。

そこで、本研究では、これまでなされてきた絵画印象に関する研究で使用された尺度を収集し、尺度で用いられている形容詞対および属している因子名をまとめ、絵画印象を測定する際に適した尺度を作成することを目的とした。

方 法

絵画研究で用いられる形容詞対の収集

まず、絵画の研究で用いられる形容詞対を集めるために、絵画に関して研究された論文を収集した。論文は、CiNii Articlesの論文検索サイトを利用して収集した。検索の際には、「絵画」、「心理学」、「評価」、「美的評価」、「印象」、「SD」、「感性」のキーワードを用いて行った。

絵画に関する論文を収集し、採択する基準として、研究者が作成したオリジナルの線画や配色のパターンなどではなく、日本国内あるいは世界的に名画として認知されているであろう、日本画および西洋画の有名絵画を評価対象として用いて研究された論文に限定した。なお、絵画の遠近法を歪めるなど、既存の絵画を操作し評価対象として用いた研究の論文に関しては採用した。また、先行研究の尺度をそのまま、あるいはその一部を用いた論文は除外した。

以上の点をふまえて論文をしぼった結果、1968年～2010年の間に発表された14本の論文を採択した (表1参照)。

尺度作成の手続き

1. 入力項目

まず、Excelに、研究者名、論文の発表年、論文のタイトル、因子分析の手法、因子名、形容詞対を入力した。

2. 複数の尺度がある論文の尺度選択の基準

同じ論文の中で、数種類の尺度を使用している場合は、研究内容と尺度の内容を考慮した上で、全ての尺度、あるいは使用した複数の尺度を最終的にまとめた尺度、または使用した全ての尺度を代表していると考えられる尺度を1つ選択し、形容詞対を入力した。

市原 (1968) の論文は、実験I³⁾、実験IIで用いられた全ての尺度を選択し、形容詞対を入力した。

市原 (1969) の論文は、Table 1の実験Iの30項目による直接バリマックス因子構造に記された尺度、Table 2の実験Iの26項目による直接バリマックス因子構造に記された尺度、Table 3の実験IIの26項目による直接バリマックス因子構造に記された尺度、以上の3つの全ての尺度を選択し、形容詞対を入力した。

市原 (1970) の論文は、Table 1の男子の因子構造に記された尺度、Table 2の女子の因子構造に記された尺度、Table 3の絵画に対して積極的な者の因子構造に記された尺度、Table 4の絵画に対して消極的な者の因子構造に記された尺度、以上の4つの全ての尺度

を選択し、形容詞対を入力した。

市原 (1971) の論文は、付表3の全員 (45名) の平均値による因子構造に記された尺度を選択し、形容詞対を入力した。

磯貝・千々岩 (1971) の論文は、表10-1の因子負荷量行列 (対象者: 美大生) に記された尺度のうち因子負荷量が低く、あまり重要でないと判断された、「豊かな-貧しい」、「明快な-ぼんやりした」、「静かな-うるさい」、「装飾的な-非装飾的な」、「鋭い-鈍い」、「ふしぎな-ふしぎでない」、以上の6項目の形容詞対を除いた計24項目の形容詞対を入力した。また、表10-2の因子負荷量行列 (対象者: ICU生) に記された尺度のうち因子負荷量が低く、あまり重要でないと判断された、「明るい-暗い」、「洗練された-洗練されない」、「装飾的な-非装飾的な」、「個性的な-非個性的な」、「重い-軽い」、「鋭い-鈍い」、「素朴な-きざな」、「透明な-不透明な」、「ふしぎな-ふしぎでない」、以上の9項目の形容詞対を除いた計21項目の形容詞対を入力した。

高木 (1979) の論文は、Table 9の大学生の感情の因子構造に記された尺度を選択し、形容詞対を入力した。

3. 形容詞対の整理の手続き

論文ごとに全ての形容詞対を入力し終えた後、同じ形容詞の組み合わせだが左右が逆に表記されているもの、同じ形容詞だが漢字で表記されていたりひらがなで表記されていたりと異なる表記がされているもの、ほとんど同じ意味をもつ形容詞であるが、異なる形容詞が使用されているものに関しては、形容詞ごとに個数を算出する際に、異なる形容詞としてカウントされてしまうため、形容詞対の表現を統一し整理した。

表2は、形容詞対の表現の変更前と変更後を、論文の発表年順にまとめたものである。

形容詞対の表現を統一し整理して入力した後、同じ形容詞対でも尺度によっては異なる因子に属していることがあるため、それぞれの形容詞対はどの因子に属しているかを調べるために、Excelのピボットテーブルの機能を用いて表を作成した。

結 果

収集した形容詞対がどのような因子に属しているかを調べるために、Excelのピボットテーブルの機能を用いて表を作成した (表3)。なお、表3では形容詞対

表1 今回の研究で採択した論文の一覧

	研究者名	発表年	論文タイトル
1	市原洋右	1968	絵画鑑賞の心理学的分析 (I)
2	市原洋右	1969	絵画鑑賞の心理学的分析 (II)
3	市原洋右	1970	絵画鑑賞の心理学的分析 (III)
4	市原洋右	1971	絵画鑑賞の心理学的分析 (IV)
5	磯貝芳郎・千々岩英彰	1971	絵画の評価と鑑賞に関する心理学的研究
6	高木敬雄	1979	絵画鑑賞に関する心理学的研究
7	荒木紀幸	1981	絵画鑑賞に関する心理学的研究
8	岡田守弘・井上純	1991	絵画鑑賞における芸術性要素に関する心理学的分析
9	植木雅昭・深野淳・西河俊伸 細見心一・水内保宏・辻田忠弘	2003	フェルメール絵画における色の感性的研究
10	植木雅昭・深野淳・吉川太郎・西河俊伸 細見心一・水内保宏・辻田忠弘	2004	フェルメール絵画の透視図法における感性的研究
11	板倉誠也・深野淳 板毛宏彰・辻田忠弘	2005	佐伯祐三についての色彩分析及び感性的評価に関する研究
12	石坂裕子・高橋晋也	2006	表現技法の教示が絵画の印象に与える影響
13	筒井亜湖・近江源太郎	2006	絵画における「面白さ感」と色彩
14	筒井亜湖・近江源太郎	2010	視覚造形における理解度と美的評価

表2 変更前と変更後の形容詞対

研究者名(発表年)	形容詞対			
	変更前		変更後	
市原(1968)	個性的	平凡な	個性的な	平凡な
	不安定な	安定した	安定した	不安定な
	たのしい	さびしい	楽しい	寂しい
	神経質でない	神経質な	神経質な	神経質でない
	やわらかい	かたい	柔らかな	固い
	女性的	男性的	男性的	女性的
	つまらない	おもしろい	面白い	つまらない
	地味な	派手な	派手な	地味な
	子供の	大人の	大人っぽい	子供っぽい
	静的	動的	動的	静的
	重たい	軽い	重い	軽い
	冷たい	暖かい	暖かい	冷たい
	不健康な	健康な	健康な	不健康な
	すどい	にぶい	鋭い	鈍い
市原(1969)	陰気な	陽気な	陽気な	陰気な
	静的	動的	動的	静的
	不健康な	健康な	健康な	不健康な
	つまらない	おもしろい	面白い	つまらない
	すどい	にぶい	鋭い	鈍い
	地味な	派手な	派手な	地味な
	やわらかい	かたい	柔らかな	固い
	子供の	大人の	大人っぽい	子供っぽい
	冷たい	暖かい	暖かい	冷たい
市原(1970)	静的	動的	動的	静的
	陰気な	陽気な	陽気な	陰気な
	たのしい	さびしい	楽しい	寂しい
	やわらかい	かたい	柔らかな	固い
	つまらない	おもしろい	面白い	つまらない
	地味な	派手な	派手な	地味な
	不健康な	健康な	健康な	不健康な
	子供の	大人の	大人っぽい	子供っぽい
	冷たい	暖かい	暖かい	冷たい
	すどい	にぶい	鋭い	鈍い
市原(1971)	たのしい	さびしい	楽しい	寂しい
	女性的	男性的	男性的	女性的
	沈静的	興奮的	興奮的	沈静的
磯貝・千々岩(1971)	新鮮な	古くさい	新しい	古い
	個性的な	非個性的な	個性的な	平凡な
	よい	悪い	良い	悪い
	暖かい	寒い	暖かい	冷たい
	明快な	ぼんやりした	はっきり	ぼんやり
高木(1979)	おもしろい	つまらない	面白い	つまらない
	興奮	沈静	興奮的	沈静的
	平凡	個性的	個性的な	平凡な
	安定	不安定	安定した	不安定な
	かたい	やわらかい	柔らかな	固い
荒木(1981)	はでな	地味な	派手な	地味な
	あざやかな	にごった	鮮やかな	濁った
	規則的	不規則的	規則的な	不規則的な
	美しい	みにくい	美しい	醜い
	きびしい	やさしい	やさしい	厳しい
	かたい	やわらかい	柔らかな	固い
	軽い	重い	重い	軽い
岡田・井上(1991)	軽い	重い	重い	軽い
	おもしろい	つまらない	面白い	つまらない
	深みのある	表面的	表面的	深みのある
	個性的	平凡	個性的な	平凡な
	安定	不安定	安定した	不安定な
	むずかしい	わかりやすい	単純な	複雑な
	やわらかい	かたい	柔らかな	固い
植木・深野・西河・細見・水内・辻田(2003)	美しい	みにくい	美しい	醜い
	おもしろい	つまらない	面白い	つまらない
	あたたかい	冷たい	暖かい	冷たい
	深みのある	うわべだけ	表面的	深みのある
	かたい	やわらかい	柔らかな	固い
	うれしい	かなしい	うれしい	悲しい
植木・深野・吉川・西河・細見・水内・辻田(2004)	おもしろい	つまらない	面白い	つまらない
	あたたかい	冷たい	暖かい	冷たい
	深みのある	うわべだけ	表面的	深みのある
	かたい	やわらかい	柔らかな	固い
	女性的な	男性的な	男性的	女性的
	力強い	弱弱しい	力強い	弱々しい
	うれしい	かなしい	うれしい	悲しい
板倉・深野・板毛・辻田(2005)	深みのある	うわべだけ	表面的	深みのある
	さわがしい	ものしずかな	静かな	うるさい
	力強い	弱弱しい	力強い	弱々しい
	おもしろい	つまらない	面白い	つまらない
	あたたかい	つめたい	暖かい	冷たい
	かたい	やわらかい	柔らかな	固い
石坂・高橋(2006)	楽しい	さびしい	楽しい	寂しい
	やわらかい	かたい	柔らかな	固い
	あたたかい	冷たい	暖かい	冷たい
	密集した	まばらな	まとまった	ばらばらな
	複雑な	単純な	単純な	複雑な
	親しみのある	親しみのない	親しみやすい	親しみにくい
筒井・近江(2006)	面白い	面白くない	面白い	つまらない
筒井・近江(2010)	複雑な	単純な	単純な	複雑な
	好きな	嫌いな	好き	嫌い
	面白い	面白くない	面白い	つまらない

表3 因子ごとに算出した形容詞の個数

形容詞	因子名	活動性	明るさ	評価性	情緒性	やわらかさ	好み	感情を強く動かす	力量性	気持ちのよさ	色彩	新奇性	美的評価	感情的印象	単純で軽やかな楽しさ	ヘドニックトーン	解放感	絵画空間の密集	個性とバランス	潜勢力	絵画に対する好み	女性的なやわらかさ	面白さ	理解	規則性	色彩感情	素朴さ	暖かさ	快さ	理解度	総計
美しい		7		6			1			1			1		1												1				18
明るい		3	9		1		1		1		1			1												1					18
暖かい		3	6		1						1			1	1							1				1		2		17	
柔らかな		1		1	3	5			1	2				1						1		1								16	
面白い		1	2	4	1	1	1				3					1								2						16	
楽しい		3	8								1			1	1	1														15	
派手な		12	1					1			1																			15	
好き		3	3	2			1			2			1			1						1								14	
新しい		9		1				1			1			1		1														14	
重い		1	7		2				1						1	1														13	
男性的		6	1		2	2														1		1								13	
安定した		9						1					1						1											12	
表面的		2	6	1	2										1															12	
単純な			6			1									1		1	1	1											11	
まとまった		7					1											1	1											10	
興奮的		9						1																						10	
大人っぽい		7		2				1																						10	
動的		8						1													1									10	
陽気な			8								1				1															10	
鋭い			3			4	1																1							9	
ゆるんだ		3				5																								8	
感情的		7						1																						8	
強い		6				1		1																						8	
健康な		5	2					1																						8	
神経質な		1	6												1															8	
平凡な		8																												8	
良い		1		4									1																	6	
積極的な		3			2																									5	
力強い		2		1	2																									5	
やさしい		2			1																1									4	
親しみやすい				2	1																	1								4	
豊かな		2		2																										4	
うれしい					2									1																3	
快い															1							1						1		3	
個性的な		1						1												1										3	
重厚な		1							2																					3	
しやれた				3																										3	
すばらしい				3																										3	
穏やかな		1			2																									3	
活発な		3																												3	
貴族的な		2		1																										3	
好ましい		1		2																										3	
自由な		2														1														3	
上品な		3																												3	
鮮やかな		1									1															1				3	
大胆な		1		1																1										3	
濃い				1	2																									3	
愉快的		2			1																									3	
理解できる																								2					1	3	
立派な		2		1																										3	

絵画印象の研究における形容詞対尺度構成の検討

形容詞	因子名																			総計													
	活動性	明るさ	評価性	情緒性	やわらかさ	好み	感情を強く動かす	力量性	気持ちのよさ	色彩	新奇性	美的評価	感情的印象	単純で軽やかな楽しさ	ヘドニックトーン	解放感	絵画空間の密集	個性とバランス	潜勢力		絵画に対する好み	女性的なやわらかさ	面白さ	理解	規則性	色彩感情	素朴さ	暖かさ	快さ	理解度			
繊細な			1					1																								2	
いきいきとした	2																															2	
かしこい			2																													2	
かわいらしい				2																												2	
はっきり	1																1															2	
規則的な												1												1								2	
強烈な	1		1																													2	
冴えた	2																															2	
作者が好き					1	1																										2	
刺激的な																							2									2	
若い			2																													2	
充実した								1																		1						2	
色が好き		1				1																										2	
静かな	1		1																													2	
線が好き					1	1																										2	
題材が好き					1	1																										2	
奔放な	2																															2	
あっさりした																1																1	
意味が分かる																							1									1	
受け入れられる																							1									1	
きれい			1																													1	
すぐ近くの																	1															1	
にぎやかな	1																															1	
まれな											1																					1	
やわらかい		1																														1	
よろこばしい				1																												1	
安心する												1																				1	
異質な											1																					1	
華やかな	1																															1	
狭い																	1															1	
興味をひく																						1										1	
驚くべき											1																					1	
芸術的			1																													1	
込み合っている																	1															1	
今までにない											1																					1	
色彩豊かな											1																					1	
精密な	1																															1	
洗練された								1																								1	
素朴な																											1					1	
対極的な											1																					1	
対称的な																							1									1	
大規模な											1																					1	
調和した											1																					1	
透明な								1																								1	
非現実的な											1																					1	
変化に富んだ											1																					1	
優美な											1																					1	
連続的な												1												1								1	
几帳面な												1																				1	
総計	163	70	47	28	22	11	9	9	8	8	8	8	8	7	7	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	2	1	1	459

の片方のみを表示している。

表3より、絵画の評価に関する研究において使用された尺度の因子として、29種類の因子があり、形容詞対は99項目があることが分かった。

本研究においては、表3で示した個数において、1つの因子で算出された合計が4個以上である形容詞対を選択し、それ以外は削除することとした。

その結果、因子およびそれに属する形容詞対が表4のようにまとまった。選択された形容詞対は合計27項目である。その27項目の形容詞対を対象に、各因子に属している形容詞対の総計が19個以上である因子を選択した結果、情緒性因子を除く、活動性因子、明るさ因子、評価性因子、やわらかさ因子、以上の4因子が残った。同一の形容詞対で複数の因子に属している場合は、より数が多いほうの因子に分類した。

活動性因子には、「美しい-醜い」、「安定した-不安定な」、「興奮的-沈静的」、「動的-静的」、「個性的な-平凡な」、「まとまった-ばらばらな」、「男性的-女性的」、「感情的-理知的」、「強い-弱い」、「健康な-不健康な」、「古い-新しい」、「大人っぽい-子供っぽい」、「派手な-地味な」、以上の形容詞対13項目が含まれることが分かった。しかしながら、「美しい-醜

い」の形容詞対を活動性因子としているのは市原(1969)および市原(1970)の論文のみであり、磯貝・千々岩(1971)のICU生を調査の対象にして行った研究、板倉他(2005)、岡田・井上(1991)、高木(1979)、植木他(2003)、植木他(2004)では、「美しい-醜い」の形容詞対を評価性因子とし、荒木(1981)は美的評価因子とし、磯貝・千々岩(1971)の美大生を調査の対象にして行った研究では素朴さ(評価性因子の変形)、筒井・近江(2010)はヘドニックトーンというように、「美しい-醜い」の形容詞対を評価性因子と関係が深い因子に含めているため、「美しい-醜い」を除いた形容詞対12項目を活動性因子とした。

明るさ因子には、「明るい-暗い」、「楽しい-寂しい」、「表面的-深みのある」、「暖かい-冷たい」、「重い-軽い」、「単純な-複雑な」、「神経質な-神経質でない」、「陽気な-陰気な」、以上の形容詞対8項目が含まれることが分かった。

評価性因子には、「美しい-醜い」、「面白い-つまらない」、「良い-悪い」以上の形容詞対3項目が含まれることが分かった。今回の分析結果では、「好き-嫌い」の形容詞対は評価性因子よりも、活動性因子および明るさ因子の個数が多いという結果となったが、「好き-嫌い」の形容詞対を活動性因子および明るさ因子としているのは、市原(1969)および市原(1970)の論文のみであり、岡田・井上(1991)および高木(1979)は「好き-嫌い」の形容詞対を評価性因子、荒木(1981)は美的評価因子、筒井・近江(2010)はヘドニックトーン因子、石坂・高橋(2006)は絵画に対する好み因子というように、「好き-嫌い」の形容詞対は、評価性因子と関係が深い因子に属していると判断し、「好き-嫌い」を含めた形容詞対4項目を評価性因子とした。

やわらかさ因子には、「柔らかな-固い」、「ゆるんだ-緊張した」、「鋭い-鈍い」、以上の形容詞対3項目が含まれることが分かった。

以上の結果をふまえ、絵画鑑賞に関する心理学的研究を行う際に使用する尺度を作成した(表5参照)。この尺度は形容詞対が因子ごとに入力されているため、実際に調査で用いる場合には、形容詞対をランダムに並び替え、さらに形容詞対の左右の配置をある程度替える必要がある。

ま と め

絵画印象に関する研究で使用されたSD法による尺度で用いられた形容詞対が、どのような因子に属しているかを調べるために、Excelのピボットテーブルの

表4 採択した因子およびそれに属する形容詞

	活動性	明るさ	評価性	やわらかさ	総計
美しい	7		6		13
派手な	12	1			13
明るい	3	9			12
楽しい	3	8			11
新しい	9		1		10
暖かい	3	6			9
男性的	6	1		2	9
安定した	9				9
表面的	2	6	1		9
興奮的	9				9
大人っぽい	7			2	9
面白い	1	2	4	1	8
好き	3	3	2		8
重い	1	7			8
動的	8				8
陽気な		8			8
ゆるんだ	3			5	8
平凡な	8				8
柔らかな	1			5	7
単純な		6		1	7
まとまった	7				7
鋭い		3		4	7
感情的	7				7
強い	6			1	7
健康な	5	2			7
神経質な	1	6			7
良い	1		4		5
総計	122	68	21	19	

機能を用いて分析した。

その結果、絵画印象の領域の研究で使用された尺度は、活動性因子、明るさ因子、評価性因子、やわらかさ因子、以上の4因子、形容詞対27項目から構成されているものが多いことが分かった。各因子に属する形容詞対の内訳としては、活動性因子（「安定した-不安定な」、「興奮的-沈静的」、「動的-静的」、「個性的な-平凡な」、「まとまった-ばらばらな」、「男性的-女性的」、「感情的-理知的」、「強い-弱い」、「健康な-

不健康な」、「古い-新しい」、「大人っぽい-子供っぽい」、「派手な-地味な」、以上の形容詞対12項目）、明るさ因子（「明るい-暗い」、「楽しい-寂しい」、「表面的-深みのある」、「暖かい-冷たい」、「重い-軽い」、「単純な-複雑な」、「神経質な-神経質でない」、「陽気な-陰気な」、以上の形容詞対8項目）、評価性因子（「美しい-醜い」、「面白い-つまらない」、「好き-嫌い」、「良い-悪い」、以上の形容詞対4項目）、やわらかさ因子（「柔らかな-固い」、「ゆるんだ-緊張した」、「鋭い-

表5 絵画鑑賞に関する研究で用いるSD法による尺度

		非常に	かなり	やや	どちらでもない	やや	かなり	非常に
活動性	1	安定した						不安定な
	2	興奮的						沈静的
	3	動的						静的
	4	個性的な						平凡な
	5	まとまった						ばらばらな
	6	男性的						女性的
	7	感情的						理知的
	8	強い						弱い
	9	健康な						不健康な
	10	新しい						古い
	11	大人っぽい						子供っぽい
	12	派手な						地味な
明るさ	13	明るい						暗い
	14	楽しい						寂しい
	15	表面的						深みのある
	16	暖かい						冷たい
	17	軽い						重い
	18	単純な						複雑な
	19	神経質でない						神経質な
	20	陽気な						陰気な
評価性	21	美しい						醜い
	22	面白い						つまらない
	23	好き						嫌い
	24	良い						悪い
やわらかさ	25	柔らかな						固い
	26	ゆるんだ						緊張した
	27	鈍い						鋭い

「鈍い」, 以上の形容詞対3項目)であった。

絵画印象に関する研究で使用される尺度における因子は, SD法による尺度でOsgoodらの主張する3因子のうちの, 活動性因子および評価性因子に加え, 明るさ因子およびやわらかさ因子から構成されるという結果となった。

今後の研究課題としては, 結果より得られた形容詞対27項目から構成された尺度で調査協力者に絵画印象を評定してもらい, 実際に活動性因子, 明るさ因子, 評価性因子, やわらかさ因子の4因子に分かれるかを検討することがあげられる。

また, 今回の結果では, 各因子に含まれる形容詞対の項目数にばらつきがある。そのため, 研究で実際に使用する際は, 各因子で用いる形容詞対の個数がある程度統一した方が望ましい。

また, やわらかさ因子の形容詞対の項目数は3項目と少ない。そのため, その因子に沿った内容の形容詞対が十分に含まれていると考えにくい。したがって, やわらかさ因子の形容詞対に関しては, さらなる検討が必要である。

引用文献

- 荒木紀幸 (1981). 絵画鑑賞に関する心理学的研究 宮崎大学教育学部紀要, **49**, 1-29.
- Franklin, M. B., Becklen, R. C., & Doyle, C. L. (1993). The influence of titles on how paintings are seen. *LEONARDO*, **26**, 103-108.
- 市原洋右 (1968). 絵画鑑賞の心理学的分析 (I) Semantic Differential 尺度に関する考察 人文学報, **62**, 113-139.
- 市原洋右 (1969). 絵画鑑賞の心理学的分析 (II) Semantic Differential 尺度に関する考察 人文学報, **67**, 79-90.

- 市原洋右 (1970). 絵画鑑賞の心理学的分析 (III) 異なる被験者群についての絵画の情意的意味構造 人文学報, **77**, 115-127.
- 市原洋右 (1971). 絵画鑑賞の心理学的分析 (IV) SD法による絵画の因子構造と絵画の好みについて 人文学報, **83**, 53-102.
- 石坂裕子・高橋晋也 (2006). 表現技法の教示が絵画の印象に与える影響—遠近法の歪みに着目して— 心理学研究, **77**, 124-131.
- 磯貝芳郎・千々岩英彰 (1971). 絵画の評価と鑑賞に関する心理学的研究 武蔵野美術大学研究紀要, **7**, 34-58.
- 板倉誠也・深野淳・板毛宏彰・辻田忠弘 (2005). 佐伯祐三絵画についての色彩分析及び感性的評価に関する研究 情報処理学会研究報告, **51**, 61-68.
- 岩下豊彦 (1983). SD法によるイメージの測定 川島書店
- 岡田守弘・井上純 (1991). 絵画鑑賞における芸術性評価要素に関する心理学的分析 横浜国立大学教育紀要, **31**, 45-66.
- 高木敬雄 (1979). 絵画鑑賞に関する心理学的研究 広島修大論集 人文編, **20**, 49-80.
- 筒井亜湖・近江源太郎 (2006). 絵画における「面白さ感」と色彩 日本色彩学会誌, **30**, 128-129.
- 筒井亜湖・近江源太郎 (2010). 視覚造形における理解度と美術評価 デザイン学研究, **57**, 11-18.
- 植木雅昭・深野淳・西河俊伸・細見心一・水内保宏・辻田忠弘 (2003). フェルメール絵画における色の感性的研究 情報処理学会研究報告, **107**, 49-56.
- 植木雅昭・深野淳・吉川太郎・西河俊伸・細見心一・水内保宏・辻田忠弘 (2004). フェルメール絵画の透視図法における感性的研究 情報処理学会研究報告, **7**, 25-32.

Scale construction of adjective pairs on the research of impression of paintings.

KIYOE CHO (*Graduate School of Psychology, Kurume University*)

MASAHIRO HARAGUCHI (*Department of Psychology, Faculty of Literature, Kurume University*)

Abstract

Construction of scales of adjective pairs using semantic differential technique for rating impressions about paintings was investigated. We collected 14 papers that have used the semantic differential technique to rate the impression of paintings and analyzed the scales. Results indicated four factors: Activity (12 items), Brightness (8 items), Evaluation (4 items) and Softness (3 items). It is concluded that, the scales used for rating impressions about paintings are constructed of four factors, whereas Osgood proposed Activity and Evaluation factors.

Key words : impression of paintings, semantic differential technique, adjective pair